

表 6.8-106 モクズガニに係る予測結果

種名（分類群）	モクズガニ（甲殻類）	
保護上重要な種の選定基準	水産庁 DB：減少傾向	
分布・一般生態等	北海道、本州、四国、九州、琉球列島、小笠原諸島に分布する。本種は降河型の通し回遊を行うため、河川の上流域から汽水域及び内湾域を中心に潮間帯、浅海域に広く生息する。	
確認状況	河川や湿地で確認された。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	工事中に発生する濁水が河川へ流入することにより生息環境が一時的に変化するものの、各河川の浮遊物質量は、現況の降雨時の濃度を大幅に超過するものではない（「6.5 水質の予測結果」）。 このため、本種の生息環境が一時的に変化するものの、その変化は極めて小さく、本種の生息に大きな影響を与えるものではないと予測する。
	飛行場・土砂採取区域の存在	飛行場の存在により生息環境の一部が直接改変を受けるものの、改変区域外の生息環境に変化はない。また、飛行場の存在により移動経路の一部（滑走路下を流下する暗渠）が改変を受けるものの、改変後の暗渠は現状と同程度の形状（勾配、落差等）を維持させる計画であることから、変化は小さい。 以上より、生息環境に変化が生じるものの、その区域及び期間は限定的であり、地域としてモクズガニの生息に大きな影響を与えるものではないと予測する。
	航空機の運航	—
	飛行場の施設の供用	飛行場の施設の供用に伴う汚水排水は、合併処理浄化槽にて適正に処理した後放流されるため、現況から大きな変化はない（「6.5 水質の予測結果」）。 このため、本種の生息環境に影響はないと予測する。

表 6.8-107 ケフサヒライソモドキに係る予測結果

種名（分類群）	ケフサヒライソモドキ（甲殻類）	
保護上重要な種の選定基準	県 RDB：準絶滅危惧	
分布・一般生態等	神奈川県～南西諸島、伊豆諸島南部に分布する。内湾、河口域中部の石の下や隙間に生息する。タイワンヒライソモドキが同じ場所で見られることがある。	
確認状況	河川において確認された。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	工事中に発生する濁水が河川へ流入することにより生息環境が一時的に変化するものの、各河川の浮遊物質量は、現況の降雨時の濃度を大幅に超過するものではない（「6.5 水質の予測結果」）。 このため、本種の生息環境が一時的に変化するものの、その変化は極めて小さく、本種の生息に大きな影響を与えるものではないと予測する。
	飛行場・土砂採取区域の存在	飛行場の存在により生息環境の一部が直接改変を受けるものの、改変区域外の生息環境に変化はない。 以上より、生息環境に変化が生じるものの、その区域は限定的であり、地域としてケフサヒライソモドキの生息に大きな影響を与えるものではないと予測する。
	航空機の運航	—
	飛行場の施設の供用	飛行場の施設の供用に伴う汚水排水は、合併処理浄化槽にて適正に処理した後放流されるため、現況から大きな変化はない（「6.5 水質の予測結果」）。 このため、本種の生息環境に影響はないと予測する。

表 6.8-108 タイワンヒライソモドキに係る予測結果

種名 (分類群)	タイワンヒライソモドキ (甲殻類)	
保護上重要な種の選定基準	海洋生物 RL : 準絶滅危惧	
分布・一般生態等	千葉県 (太平洋側)・鳥取県 (日本海側) ~ 琉球列島に分布し、内陸の干潟、河口域上部で淡水の影響が強い砂泥底にある石の下に生息する。	
確認状況	河川において確認された。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	工事中に発生する濁水が河川へ流入することにより生息環境が一時的に変化するものの、各河川の浮遊物質量は、現況の降雨時の濃度を大幅に超過するものではない (「6.5 水質の予測結果」)。このため、本種の生息環境が一時的に変化するものの、その変化は極めて小さく、本種の生息に大きな影響を与えるものではないと予測する。
	飛行場・土砂採取区域の存在	飛行場の存在により生息環境の一部が直接改変を受けるものの、改変区域外の生息環境に変化はない。以上より、生息環境に変化が生じるものの、その区域は限定的であり、地域としてタイワンヒライソモドキの生息に大きな影響を与えるものではないと予測する。
	航空機の運航	—
	飛行場の施設の供用	飛行場の施設の供用に伴う汚水排水は、合併処理浄化槽にて適正に処理した後放流されるため、現況から大きな変化はない (「6.5 水質の予測結果」)。このため、本種の生息環境に影響はないと予測する。

表 6.8-109 ベンケイガニに係る予測結果

種名 (分類群)	ベンケイガニ (甲殻類)	
保護上重要な種の選定基準	海洋生物 RL : 準絶滅危惧	
分布・一般生態等	千葉県 (太平洋側)・秋田県 (日本海側) ~ 琉球列島に分布する。河川の下流~中流の川岸や海岸近くの草地、湿地、水田の周辺等に巣穴を掘って生息する。産卵期は 7~9 月で雌は約 1 か月抱卵した後、川岸や海岸へ移動し、幼生を放つ。	
確認状況	河川や湿地において確認された。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	工事中に発生する濁水が河川へ流入することにより生息環境が一時的に変化するものの、各河川の浮遊物質量は、現況の降雨時の濃度を大幅に超過するものではない (「6.5 水質の予測結果」)。このため、本種の生息環境が一時的に変化するものの、その変化は極めて小さく、本種の生息に大きな影響を与えるものではないと予測する。
	飛行場・土砂採取区域の存在	飛行場の存在により生息環境の一部が直接改変を受けるものの、改変区域外の生息環境に変化はない。また、飛行場の存在により移動経路の一部 (滑走路下を流下する暗渠) が改変を受けるものの、改変後の暗渠は現状と同程度の形状 (勾配、落差等) を維持させる計画であることから、変化は小さい。以上より、生息環境に変化が生じるものの、その区域及び期間は限定的であり、地域としてベンケイガニの生息に大きな影響を与えるものではないと予測する。
	航空機の運航	—
	飛行場の施設の供用	飛行場の施設の供用に伴う汚水排水は、合併処理浄化槽にて適正に処理した後放流されるため、現況から大きな変化はない (「6.5 水質の予測結果」)。このため、本種の生息環境に影響はないと予測する。

表 6.8-110 コツノテナガエビに係る予測結果

種名 (分類群)	コツノテナガエビ (甲殻類)	
保護上重要な種の選定基準	県 RDB : 準絶滅危惧	
分布・一般生態等	体長 90~120 mm 程度の大型種。鹿児島県内では大隅半島南西部、屋久島、口永良部島、中之島から知られている。河口から上流域まで生息し、比較的流れの速く、裸岩や転石が卓越する淵に生息する。	
確認状況	河川や湿地において確認された。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	工事中に発生する濁水が河川へ流入することにより生息環境が一時的に変化するものの、各河川の浮遊物質量は、現況の降雨時の濃度を大幅に超過するものではない (「6.5 水質の予測結果」)。このため、本種の生息環境が一時的に変化するものの、その変化は極めて小さく、本種の生息に大きな影響を与えるものではないと予測する。
	飛行場・土砂採取区域の存在	飛行場の存在により生息環境の一部が直接改変を受けるものの、改変区域外の生息環境に変化はない。以上より、生息環境に変化が生じるものの、その区域は限定的であり、地域としてコツノテナガエビの生息に大きな影響を与えるものではないと予測する。
	航空機の運航	—
	飛行場の施設の供用	飛行場の施設の供用に伴う汚水排水は、合併処理浄化槽にて適正に処理した後放流されるため、現況から大きな変化はない (「6.5 水質の予測結果」)。このため、本種の生息環境に影響はないと予測する。

表 6.8-111 ミナミテナガエビに係る予測結果

種名 (分類群)	ミナミテナガエビ (甲殻類)	
保護上重要な種の選定基準	水産庁 DB : 減少種	
分布・一般生態等	神奈川県、静岡県、岡山県、島根県、高知県、長崎県、熊本県、宮崎県、鹿児島県 (種子島から沖永良部島を含む)、沖縄県 (沖縄本島から八重山諸島まで)、小笠原諸島に分布する。本種は琉球列島では河川の河口部から上流まで生息するが、九州以北では河口~中流域に分布する。河川の深みのある緩流域等に生息する。	
確認状況	河川において確認された。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	工事中に発生する濁水が河川へ流入することにより生息環境が一時的に変化するものの、各河川の浮遊物質量は、現況の降雨時の濃度を大幅に超過するものではない (「6.5 水質の予測結果」)。このため、本種の生息環境が一時的に変化するものの、その変化は極めて小さく、本種の生息に大きな影響を与えるものではないと予測する。
	飛行場・土砂採取区域の存在	飛行場の存在により生息環境の一部が直接改変を受けるものの、改変区域外の生息環境に変化はない。以上より、生息環境に変化が生じるものの、その区域は限定的であり、地域としてミナミテナガエビの生息に大きな影響を与えるものではないと予測する。
	航空機の運航	—
	飛行場の施設の供用	飛行場の施設の供用に伴う汚水排水は、合併処理浄化槽にて適正に処理した後放流されるため、現況から大きな変化はない (「6.5 水質の予測結果」)。このため、本種の生息環境に影響はないと予測する。

表 6.8-112 ツブテナガエビに係る予測結果

種名 (分類群)	ツブテナガエビ (甲殻類)	
保護上重要な種の選定基準	環境省 RL: 準絶滅危惧 県 RDB: 準絶滅危惧	
分布・一般生態等	体長 60~80 mm程度のやや大型な種。鹿児島県内では口永良部島と屋久島から知られている。奄美大島からの報告もある。河口から中流域に生息し、比較的流れの速い流心部に棲む。河口から直ぐ渓流域になるような急勾配の小河川を好む。	
確認状況	河川において確認された。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	工事中に発生する濁水が河川へ流入することにより生息環境が一時的に変化するものの、各河川の浮遊物質量は、現況の降雨時の濃度を大幅に超過するものではない(「6.5 水質の予測結果」)。このため、本種の生息環境が一時的に変化するものの、その変化は極めて小さく、本種の生息に大きな影響を与えるものではないと予測する。
	飛行場・土砂採取区域の存在	ツブテナガエビの生息地は直接改変を受けず、生息環境に変化はない。以上より、本種の生息環境に影響はないと予測する。
	航空機の運航	—
	飛行場の施設の供用	飛行場の施設の供用に伴う污水排水は、合併処理浄化槽にて適正に処理した後放流されるため、現況から大きな変化はない(「6.5 水質の予測結果」)。このため、本種の生息環境に影響はないと予測する。

表 6.8-113 ヤマトヌマエビに係る予測結果

種名 (分類群)	ヤマトヌマエビ (甲殻類)	
保護上重要な種の選定基準	県 RDB: 準絶滅危惧	
分布・一般生態等	体長 30~40 mm程度の中型種。鹿児島県内では薩摩・大隅半島、甌島列島、宇治群島、大隅諸島、トカラ列島、奄美諸島、沖永良部島に分布している。下流~上流域まで広く生息し、ある程度深さがあり、流れの速い淵の壁などに集まる傾向がある。	
確認状況	河川や湿地において確認された。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	工事中に発生する濁水が河川へ流入することにより生息環境が一時的に変化するものの、各河川の浮遊物質量は、現況の降雨時の濃度を大幅に超過するものではない(「6.5 水質の予測結果」)。このため、本種の生息環境が一時的に変化するものの、その変化は極めて小さく、本種の生息に大きな影響を与えるものではないと予測する。
	飛行場・土砂採取区域の存在	ヤマトヌマエビの生息地は直接改変を受けず、生息環境に変化はない。一方で、飛行場の存在により移動経路の一部(滑走路下を流下する暗渠)が改変を受ける。しかし、改変後の暗渠は現状と同程度の形状(勾配、落差等)を維持させる計画であることから、変化は小さい。以上より、生息環境に変化が生じるものの、その期間は限定的であり、地域としてヤマトヌマエビの生息に大きな影響を与えるものではないと予測する。
	航空機の運航	—
	飛行場の施設の供用	飛行場の施設の供用に伴う污水排水は、合併処理浄化槽にて適正に処理した後放流されるため、現況から大きな変化はない(「6.5 水質の予測結果」)。このため、本種の生息環境に影響はないと予測する。

表 6.8-114 サキシマヌマエビに係る予測結果

種名 (分類群)	サキシマヌマエビ (甲殻類)	
保護上重要な種の選定基準	県保護条例：鹿児島県指定希少野生動植物 環境省 RL：準絶滅危惧 県 RDB：絶滅危惧Ⅱ類	
分布・一般生態等	体長 20～30 mm程度の小型種。鹿児島県内では中之島、喜界島、沖永良部島、与論島から知られている。山間を流れる河川の石の下や泉、崖から滲み出た水が集まる側溝などに見られ、洞窟内にも生息する。	
確認状況	湿地において確認された。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	工事中に発生する濁水が河川へ流入することにより生息環境が一時的に変化するものの、各河川の浮遊物質量は、現況の降雨時の濃度を大幅に超過するものではない（「6.5 水質の予測結果」）。このため、本種の生息環境が一時的に変化するものの、その変化は極めて小さく、本種の生息に大きな影響を与えるものではないと予測する。
	飛行場・土砂採取区域の存在	サキシマヌマエビの生息地は直接改変を受けず、生息環境に変化はない。以上より、本種の生息環境に影響はないと予測する。
	航空機の運航	—
	飛行場の施設の供用	飛行場の施設の供用に伴う污水排水は、合併処理浄化槽にて適正に処理した後放流されるため、現況から大きな変化はない（「6.5 水質の予測結果」）。このため、本種の生息環境に影響はないと予測する。

表 6.8-115 イシマキガイに係る予測結果

種名 (分類群)	イシマキガイ (貝類)	
保護上重要な種の選定基準	水産庁 DB：減少種	
分布・一般生態等	本州房総以南及び新潟県以南、四国、九州（対馬、壱岐、五島、屋久島、種子島を含む）、奄美大島、沖縄本島、宮古島、八重山諸島、小笠原諸島に分布する。河川汽水域の上流部から淡水域にかけて広く分布する。	
確認状況	河川で多数が確認された。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	工事中に発生する濁水が河川へ流入することにより生息環境が一時的に変化するものの、各河川の浮遊物質量は、現況の降雨時の濃度を大幅に超過するものではない（「6.5 水質の予測結果」）。このため、本種の生息環境が一時的に変化するものの、その変化は極めて小さく、本種の生息に大きな影響を与えるものではないと予測する。
	飛行場・土砂採取区域の存在	飛行場の存在により生息環境の一部が直接改変を受けるものの、改変区域外の生息環境に変化はない。以上より、生息環境に変化が生じるものの、その区域は限定的であり、地域としてイシマキガイの生息に大きな影響を与えるものではないと予測する。
	航空機の運航	—
	飛行場の施設の供用	飛行場の施設の供用に伴う污水排水は、合併処理浄化槽にて適正に処理した後放流されるため、現況から大きな変化はない（「6.5 水質の予測結果」）。このため、本種の生息環境に影響はないと予測する。

表 6.8-116 フネアマガイに係る予測結果

種名（分類群）	フネアマガイ（貝類）	
保護上重要な種の選定基準	水産庁 DB：減少種	
分布・一般生態等	奄美大島以南に分布する。静岡県沼津市、和歌山県南部町、和歌山県白浜町、鹿児島県指宿市、屋久島南部等にも記録がある。本種は孵化後に降海して、幼生は河川部の汽水域の岩盤上に定着する。その後河川を遡上して成貝は通常淡水域に生息するという両側回遊型の生活史を持つ。	
確認状況	河川で多数が確認された。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	工事中に発生する濁水が河川へ流入することにより生息環境が一時的に変化するものの、各河川の浮遊物質量は、現況の降雨時の濃度を大幅に超過するものではない（「6.5 水質の予測結果」）。このため、本種の生息環境が一時的に変化するものの、その変化は極めて小さく、本種の生息に大きな影響を与えるものではないと予測する。
	飛行場・土砂採取区域の存在	飛行場の存在により生息環境の一部が直接改変を受けるものの、改変区域外の生息環境に変化はない。以上より、生息環境に変化が生じるものの、その区域は限定的であり、地域としてフネアマガイの生息に大きな影響を与えるものではないと予測する。
	航空機の運航	—
	飛行場の施設の供用	飛行場の施設の供用に伴う汚水排水は、合併処理浄化槽にて適正に処理した後放流されるため、現況から大きな変化はない（「6.5 水質の予測結果」）。このため、本種の生息環境に影響はないと予測する。

表 6.8-117 キボシホシゲンゴロウに係る予測結果

種名（分類群）	キボシホシゲンゴロウ（水生昆虫類）	
保護上重要な種の選定基準	環境省 RL：情報不足	
分布・一般生態等	北海道、本州、四国、九州、対馬、五島福江島、屋久島に分布する。低山地～山地の清流に生息し、岸辺の岩陰等の流れの緩やかな水域やよどみの石の下等に見られる。	
確認状況	調査では、河川で確認された。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	工事中に発生する濁水が河川へ流入することにより生息環境が一時的に変化するものの、各河川の浮遊物質量は、現況の降雨時の濃度を大幅に超過するものではない（「6.5 水質の予測結果」）。このため、本種の生息環境が一時的に変化するものの、その変化は極めて小さく、本種の生息に大きな影響を与えるものではないと予測する。
	飛行場・土砂採取区域の存在	土砂採取区域の存在により生息環境の一部が直接改変を受けるものの、改変区域外の生息環境に変化はない。以上より、生息環境に変化が生じるものの、その区域は限定的であり、地域としてキボシホシゲンゴロウの生息に大きな影響を与えるものではないと予測する。
	航空機の運航	—
	飛行場の施設の供用	飛行場の施設の供用に伴う汚水排水は、合併処理浄化槽にて適正に処理した後放流されるため、現況から大きな変化はない（「6.5 水質の予測結果」）。このため、本種の生息環境に影響はないと予測する。

表 6.8-118 スジホシムシに係る予測結果

種名 (分類群)	スジホシムシ (底生生物)	
保護上重要な種の選定基準	海洋生物 RL : 準絶滅危惧	
分布・一般生態等	陸奥湾以南 (瀬戸内海を含む) に分布する。暖水性の汎世界種とされるが複数種が含まれる可能性がある。潮間帯から水深約 100m までの浅海で、多くの場合貝殻やサンゴ礁の破片が混じった砂泥中に生息する。	
確認状況	冬季に、1 個体が確認された。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	工事中に発生する濁水の流入により、河口付近の上層の浮遊物質量が変化する。しかし、中層・下層及び沖合の浮遊物質量はほとんど変化せず、上層もごくわずかに変化するのみである (「6.5 水質の予測結果」)。このため、本種の生息環境に影響はないと予測する。
	飛行場・土砂採取区域の存在	—
	航空機の運航	—
	飛行場の施設の供用	飛行場の施設の供用に伴う污水排水は、合併処理浄化槽にて適正に処理した後に放流されるため、現況から大きな変化はない (「6.5 水質の予測結果」)。このため、本種の生息環境に影響はないと予測する。

表 6.8-119 マクガイに係る予測結果

種名 (分類群)	マクガイ (底生生物)	
保護上重要な種の選定基準	県 RDB : 準絶滅危惧	
分布・一般生態等	紀伊半島南部以南、四国、九州、奄美群島、沖縄諸島、台湾、熱帯インド・太平洋に分布する。河口汽水域のマングローブ林の幹や岩に足糸で付着している。マガキなどに混じって付着していることが多い。	
確認状況	秋季に、1 個体が確認された。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	工事中に発生する濁水の流入により、河口付近の上層の浮遊物質量が変化する。しかし、中層・下層及び沖合の浮遊物質量はほとんど変化せず、上層もごくわずかに変化するのみである (「6.5 水質の予測結果」)。このため、本種の生息環境に影響はないと予測する。
	飛行場・土砂採取区域の存在	—
	航空機の運航	—
	飛行場の施設の供用	飛行場の施設の供用に伴う污水排水は、合併処理浄化槽にて適正に処理した後に放流されるため、現況から大きな変化はない (「6.5 水質の予測結果」)。このため、本種の生息環境に影響はないと予測する。

表 6.8-120 シラヒゲウニに係る予測結果

種名 (分類群)	シラヒゲウニ (底生生物)	
保護上重要な種の選定基準	水産庁 DB : 減少種	
分布・一般生態等	紀伊半島から沖縄群島にまで分布するが、主な分布域は奄美諸島と沖縄諸島の潮下帯上部である。稚仔個体は礫上の扁平な 10~30cm の石の下面に生息するが、40cm を超えると拡散移動して岩盤や転石域に生息場を移す。藻食性で多種の海藻を摂食する。	
確認状況	冬季に、1 個体が確認された。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	工事中に発生する濁水の流入により、河口付近の上層の浮遊物質量が変化する。しかし、中層・下層及び沖合の浮遊物質量はほとんど変化せず、上層もごくわずかに変化するのみである (「6.5 水質の予測結果」)。このため、本種の生息環境に影響はないと予測する。
	飛行場・土砂採取区域の存在	—
	航空機の運航	—
	飛行場の施設の供用	飛行場の施設の供用に伴う汚水排水は、合併処理浄化槽にて適正に処理した後放流されるため、現況から大きな変化はない (「6.5 水質の予測結果」)。このため、本種の生息環境に影響はないと予測する。

表 6.8-121 マダラエイに係る予測結果

種名 (分類群)	マダラエイ (底生生物)	
保護上重要な種の選定基準	海洋生物 RL : 情報不足	
分布・一般生態等	日本国内では、八丈島、小笠原諸島、静岡県下田、和歌山県白浜・串本、長崎県野母崎、九州南岸、琉球列島から記録されている。温帯~熱帯の岩礁・サンゴ礁の砂底域に生息する。	
確認状況	秋季に 1 個体が確認された。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	工事中に発生する濁水の流入により、河口付近の上層の浮遊物質量が変化する。しかし、中層・下層及び沖合の浮遊物質量はほとんど変化せず、上層もごくわずかに変化するのみである (「6.5 水質の予測結果」)。このため、本種の生息環境に影響はないと予測する。
	飛行場・土砂採取区域の存在	—
	航空機の運航	—
	飛行場の施設の供用	飛行場の施設の供用に伴う汚水排水は、合併処理浄化槽にて適正に処理した後放流されるため、現況から大きな変化はない (「6.5 水質の予測結果」)。このため、本種の生息環境に影響はないと予測する。



表 6.8-122 ムカシサンゴに係る予測結果

種名 (分類群)	ムカシサンゴ (サンゴ類)	
保護上重要な種の選定基準	水産庁 DB : 減少傾向	
分布・一般生態等	静岡県西伊豆・長崎県対馬以南に分布する。主に被覆状群体で、群体表面に短い枝を持つ大きな半球状群体を形成することがある。個体は多角形から円形で莖径は 0.7~1mm で、個体間隔はやや不規則。軟体部の色彩は主に褐色から緑色で、ポリプの口盤と触手の先端が白色などの薄い色になる。波浪の影響の少ない礁斜面や岩礁域、内湾や礁池・浅礁湖で見られる。	
確認状況	2 群体が確認された。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	工事中に発生する濁水の流入により、河口付近の上層の浮遊物質量が変化する。しかし、中層・下層及び沖合の浮遊物質量はほとんど変化せず、上層もごくわずかに変化するのみである (「6.5 水質の予測結果」)。このため、本種の生息環境に影響はないと予測する。
	飛行場・土砂採取区域の存在	—
	航空機の運航	—
	飛行場の施設の供用	飛行場の施設の供用に伴う污水排水は、合併処理浄化槽にて適正に処理した後に放流されるため、現況から大きな変化はない (「6.5 水質の予測結果」)。このため、本種の生息環境に影響はないと予測する。

表 6.8-123 アオウミガメに係る予測結果

種名 (分類群)	アオウミガメ (ウミガメ類)	
保護上重要な種の選定基準	種の保存法 : 国際希少野生動植物種 環境省 RL : 絶滅危惧Ⅱ類 県 RDB : 絶滅危惧Ⅱ類 水産庁 DB : 希少種 ウミガメ条例における保護の対象種	
分布・一般生態等	世界の熱帯、亜熱帯に広く分布し、日本における安定した産卵場は、屋久島以南の琉球列島にある。成体は、鹿児島県内広範囲の海域で見られる。	
確認状況	ウミガメ類の調査範囲において、4 月、5 月は 6 個体、6 月は 4 個体、7 月は 7 個体、8 月は 5 個体が確認された。調査地域において産卵のために上陸した個体は確認されておらず、また、産卵に適した環境も確認されなかった。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	工事中に発生する濁水の流入により、河口付近の上層の浮遊物質量が変化する。しかし、中層・下層及び沖合の浮遊物質量はほとんど変化せず、上層もごくわずかに変化するのみである (「6.5 水質の予測結果」)。このため、本種の生息環境に影響はないと予測する。
	飛行場・土砂採取区域の存在	—
	航空機の運航	—
	飛行場の施設の供用	飛行場の施設の供用に伴う污水排水は、合併処理浄化槽にて適正に処理した後に放流されるため、現況から大きな変化はない (「6.5 水質の予測結果」)。このため、本種の生息環境に影響はないと予測する。

イ. 注目すべき生息地に係る飛行場・土砂採取区域の存在による影響の予測結果

予測対象生息地への、飛行場・土砂採取区域の存在による影響の予測結果を表 6.8-124～表 6.8-127 に示す。

表 6.8-124 予測対象生息地に係る予測結果（飛行場周辺の平地樹林）

注目すべき生息地	飛行場周辺の平地樹林	
選定基準	複数の保護上重要な種が集中して生息していること	
注目される理由である動物の種の生息状況（主な確認種）	【陸産貝類】 保護上重要な種 20 種	
注目される理由である動物の種の生息環境の状況	飛行場（現施設）周辺の常緑広葉樹群落が分布するエリアである。地形的には平地で、河川や湿地等の水域が隣接している。樹林内は湿潤な環境であり、陸産貝類の保護上重要な種の確認が多くなっている。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	-
	飛行場・土砂採取区域の存在	飛行場の存在により、3 箇所にて点在する注目すべき生息地のうち 1 箇所が消失するものの、2 箇所は残存する。 以上より、注目すべき生息地のうちの 1 箇所が影響を受けると予測する。 なお、調査範囲周辺には、同様の生息地が広く存在し、消失する生息地でのみ確認された重要種はいない。
	航空機の運航	-
	飛行場の施設の供用	-

表 6.8-125 予測対象種生息地に係る予測結果（土砂採取区域の緩傾斜面樹林）

注目すべき生息地	土砂採取区域の緩傾斜面樹林	
選定基準	複数の保護上重要な種が集中して生息していること	
注目される理由である動物の種の生息状況（主な確認種）	<p>【鳥類】 保護上重要な種 1 種※ ※注目すべき生息地を生育環境の一部として利用している</p> <p>【陸産貝類】 保護上重要な種 25 種</p>	
注目される理由である動物の種の生息環境の状況	土砂採取区域の外縁部とその外側に位置するエリアである。地形的にはなだらかな北東向き斜面となっている。主にシイ林とスギ・ヒノキ植林が分布するエリアである。樹林内は湿潤な環境であり、陸産貝類の重要な種の確認が多くなっている。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	-
	飛行場・土砂採取区域の存在	注目すべき生息地が対象事業実施区域内外にまたがって分布している。詳細な土砂採取区域は決定していないものの、土砂採取区域と対象事業実施区域を同じ範囲とした場合、対象事業実施区域内の生息環境が直接改変を受け、消失する。また、対象事業実施区域に隣接する生息地についても、日当たり・風通し等の変化により、注目すべき生息地の環境にも変化が生じると考えられる。 以上より、注目すべき生息地のほとんどが影響を受けると予測した。
	航空機の運航	-
	飛行場の施設の供用	-

表 6.8-126 予測対象種生息地に係る予測結果（土砂採取区域の谷筋樹林）

注目すべき生息地	土砂採取区域の丘陵地樹林	
選定基準	複数の保護上重要な種が集中して生息していること	
注目される理由である動物の種の生息状況（主な確認種）	<p>【鳥類】 保護上重要な種 1 種※ ※注目すべき生息地を生育環境の一部として利用している</p> <p>【陸産貝類】 保護上重要な種 20 種</p> <p>【魚類】 保護上重要な種 1 種※ ※注目すべき生息地を生育環境の一部として利用している</p> <p>【水生昆虫類】 保護上重要な種 1 種 ※注目すべき生息地を生育環境の一部として利用している</p>	
注目される理由である動物の種の生息環境の状況	土砂採取区域東側の喜三次川上流部の谷地形を中心とした範囲である。比較的自然的性の高い樹林植生が優占する谷筋のエリアであり、注目すべき生息地の中で最も湿潤な環境である。確認された重要な動植物の種数も個体数も多い。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	-
	飛行場・土砂採取区域の存在	注目すべき生息地が対象事業実施区域内外にまたがって分布している。詳細な土砂採取区域は決定していないものの、土砂採取区域と対象事業実施区域を同じ範囲とした場合、対象事業実施区域内の生息環境が直接改変を受け、消失する。また、対象事業実施区域に隣接する生息地についても、日当たり・風通し等の変化により、注目すべき生息地の環境にも変化が生じると考えられる。 以上より、注目すべき生息地のほとんどが影響を受けると予測した。
	航空機の運航	-
	飛行場の施設の供用	-

表 6.8-127 予測対象生息地に係る予測結果（土砂採取区域の丘陵地樹林）

注目すべき生息地	土砂採取区域の丘陵地樹林	
選定基準	複数の保護上重要な種が集中して生息していること	
注目される理由である動物の種の生息状況（主な確認種）	<p>【昆虫類】 保護上重要な種 1 種※ ※注目すべき生息地を生育環境の一部として利用している</p> <p>【陸産貝類】 保護上重要な種 9 種</p>	
注目される理由である動物の種の生息環境の状況	土砂採取区域南西側の対象事業実施区域の中で最も標高が高い丘陵地形となっているエリアである。注目すべき生息地の中では最も乾燥気味であり、植物の重要な種の確認が特に多くなっている。	
予測結果	造成等の施工による一時的な影響	-
	飛行場・土砂採取区域の存在	注目すべき生息地が対象事業実施区域内外にまたがって分布している。詳細な土砂採取区域は決定していないものの、土砂採取区域と対象事業実施区域を同じ範囲とした場合、対象事業実施区域内の生息環境が直接改変を受け、消失する。また、対象事業実施区域に隣接する生息地についても、日当たり・風通し等の変化により、注目すべき生息地の環境にも変化が生じると考えられる。 以上より、注目すべき生息地のほとんどが影響を受けると予測した。
	航空機の運航	-
	飛行場の施設の供用	-

## ウ. 予測結果の整理

### a. 造成等の施工による一時的な影響

造成工事等によって発生する水の濁りによる影響の予測結果は、表 6.8-128 に示すとおりである。予測結果は、予測対象種の主な生息水域をもとに、河川と海域の 2 つの生息区分に分類し、その区分ごとに整理した。

また、夜間工事における工事用照明の使用に伴う影響の予測結果は、表 6.8-129 に示すとおりである。予測結果は、予測対象種の生態・確認状況をもとに、以下の 4 つの区分に分類し、その区分ごとに整理した。

- ・対象事業実施区域内で確認された夜間に活発に活動する種
- ・対象事業実施区域外で確認された夜間に活発に活動する種
- ・走光性を有し、調査範囲外が主な生息地であると考えられる種
- ・繁殖が確認されておらず夜間にほとんど活動しない種

表 6.8-128 造成等の施工による一時的な影響の予測結果の整理（水の濁り）

生息区分	種名	予測結果
河川等	<b>【魚類】</b> ニホンウナギ、オオウナギ、アカボウズハゼ、ルリボウズハゼ <b>【甲殻類】</b> モクズガニ、ケフサヒライソモドキ、タイワンヒライソモドキ、ベンケイガニ、コツノテナガエビ、ミナミテナガエビ、ツブテナガエビ、ヤマトヌマエビ、サキシマヌマエビ <b>【貝類】</b> イシマキガイ、フネアマガイ <b>【水生昆虫類】</b> キボシホシゲンゴロウ	造成工事等によって発生する濁水が河川への流入することにより、河川環境が変化するおそれがある。しかし、水質の予測結果（「6.5 水質」参照）より、各河川の浮遊物質量は、現況濃度を大幅に超過するものではない。このため、保護上重要な種の生息環境も一時的に変化する可能性があるものの、その程度は極めて小さく、動物の生息に大きな影響を与えるものではない。以上より、河川に生息する予測対象種の生息環境に影響はないと予測する。 <b>【◎：生息環境に影響はない】</b>
海域	<b>【オカヤドカリ類】</b> オカヤドカリ類 <sup>注</sup> <b>【潮間帯生物】</b> マクガイ、シラヒゲウニ <b>【魚類】</b> マダラエイ <b>【サンゴ類】</b> ムカシサンゴ <b>【ウミガメ類】</b> アオウミガメ	水質の予測結果（「6.5 水質」参照）より、工事中に発生する濁水の海域への流入により、河口付近の上層の浮遊物質量がわずかに変化する。しかし、中層・下層及び沖合の浮遊物質量はほとんど変化しない。このため、海域に生息する予測対象種の生息環境に影響はないと予測する。 <b>【◎：生息環境に影響はない】</b>

注) オカヤドカリ類は陸域動物であるものの、生活史の一部（幼生の時期等）を海域で過ごすことから、生息区分を海域とした。

表 6.8-129 造成等の施工による一時的な影響の予測結果の整理（工事中照明）

確認区分	種名	予測結果
対象事業実施区域内で確認された夜間に活発に活動する種	<b>【哺乳類】</b> ニホンジネズミ <b>【爬虫類】</b> ヤクヤモリ <b>【昆虫類】</b> ヒメマルゴキブリ、コブナナフシ	夜間に活発に活動する動物であり、夜間工事における工事中照明の使用により、生息環境に変化が生じるおそれがある。以上より、生息環境に変化が生じ影響を受けると予測する。 <b>【×：生息環境が影響を受ける】</b>
対象事業実施区域外で確認された夜行性動物	<b>【哺乳類】</b> コテングコウモリ	確認環境において夜間工事を実施する計画はないことから、生息環境に影響はないと予測する。 <b>【◎：生息環境に影響はない】</b>
走光性を有し、調査範囲外が主な生息地であると考えられる種	<b>【昆虫類】</b> コガタノゲンゴロウ	走光性を有しており、夜間工事で使用する工事中照明に誘引されるおそれがある。以上より、生息環境に変化が生じ影響を受けると予測する。 <b>【×：生息環境が影響を受ける】</b>
繁殖が確認されておらず夜間にほとんど活動しない種	<b>【鳥類】</b> カラスバト、ミサゴ、ハイタカ、サシバ、タネアオゲラ、ハヤブサ <b>【昆虫類】</b> ヤマトアシナガバチ	夜間工事における工事中照明の使用により、生息環境が変化するおそれがある。しかし、工事中照明による影響を敏感に受けるおそれがある繁殖が確認されておらず、影響は限定的であると考えられる。 <b>【○：生息環境の一部が影響を受ける】</b>

b. 飛行場の存在、土砂採取区域の存在による影響

1. 予測対象種

飛行場（延伸した滑走路等）又は土砂採取区域の存在による予測対象種への影響の予測結果は、表 6.8-130(1)～(2)に整理するとおりである。

予測結果は、予測対象種の確認位置や生態、利用性をもとに、以下の5つの確認区分に分類し、その区分ごと整理した。

- ・対象事業実施区域内でのみ確認され、生息環境を当該地に依存する種
- ・対象事業実施区域内でのみ確認された種のうち、当該地を生息環境の一部として利用している種
- ・対象事業実施区域内外で確認された種
- ・対象事業実施区域外でのみ確認された種
- ・対象事業実施区域（飛行場）内を流下する河川等で確認された水生生物のうち、対象事業実施区域（飛行場）より上流側で確認された種

表 6.8-130 (1) 飛行場又は土砂採取区域の存在による予測結果の整理

確認区分	種名	予測結果
対象事業実施区域内でのみ確認され、生息環境を当該地に依存する種	<b>【哺乳類】</b> ニホンジネズミ <b>【昆虫類】</b> ヒメマルゴキブリ、コブナナフシ <b>【陸産貝類】</b> サツمامシオイ、ヤコビギセル、ヤクシマダワラガイ、ミジンナタネガイ、ウメムラシタラガイ、ソコスジカサキビ	飛行場又は土砂採取区域の存在により、生息地が直接改変を受ける。また、直接改変後に生息環境が復元されることはなく、新たに移動経路の阻害等の影響が生じることも想定される。 以上より、予測対象種の生息環境が影響を受けると予測する。 <b>【×：生息環境が影響を受ける】</b>
対象事業実施区域内でのみ確認された種のうち、当該地を生息環境の一部として利用している種	<b>【鳥類】</b> ハイタカ、ハヤブサ <b>【昆虫類】</b> コガタノゲンゴロウ	行動範囲が広く生息環境の一部として確認環境を利用している種、もしくは、偶発的に飛来した個体が確認され主要な生息環境は調査範囲外に分布すると考えられる種である。 飛行場の存在により、生息環境の一部が消失するものの改変区域外の生息地に変化しない。 このことから、予測対象種の生息環境の一部が影響を受けると予測する。なお、改変区域外の主要な生息環境は残存することから、調査地域として予測対象種の生息は維持されると考えられる。 <b>【○：生息環境の一部が影響を受ける】</b>



表 6.8-130 (2) 飛行場又は土砂採取区域の存在による予測結果の整理

確認区分	種名	予測結果
対象事業実施区域内外で確認された種	<p>【鳥類】 カラスバト、タネアオゲラ</p> <p>【爬虫類】 ヤクヤモリ</p> <p>【昆虫類】 ヤマトアシナガバチ</p> <p>【陸産貝類】 ヤマタニシ、ミジンヤマタニシ、ヒメヤマククルマガイ、タネガシマムシオイ、アズキガイ、フナトウアズキガイ、タネガシマゴマガイ、ヤクシマゴマガイ、チャイロキセルガイモドキ、ピントノミギセル、ハラプトノミギセル、タネガシマギセル、ハラプトギセル、ヒメカサキビ、ヒメベッコウ、ヤクシマヒメベッコウ、コシダカシタラガイ、オオクラヒメベッコウ、タネガシマヒメベッコウ、コシダカヒメベッコウ、ヤクジマシタラガイ、ヤクジマベッコウ、タカカサマイマイ、クチジロビロウドマイマイ、ヘソカドケマイマイ、ツバキカドマイマイ、ヤクシママイマイ、チャイロマイマイ</p> <p>【魚類】 オオウナギ</p> <p>【甲殻類】 モクズガニ、タイワンヒライソモドキ、ベンケイガニ、コツノテナガエビ、ミナミテナガエビ、ツブテナガエビ</p> <p>【水生昆虫類】 キボシホシゲンゴロウ</p>	<p>飛行場又は土砂採取区域の存在により生息環境の一部が直接改変を受けるものの、改変区域外の生息環境に変化はない。</p> <p>以上より、生息環境の一部が影響を受けるものの、その区域は限定的であり、地域として対象種の生息に大きな影響を与えるものではないと予測する。</p> <p>【○：生息環境の一部が影響を受ける】</p>
対象事業実施区域外でのみ確認された種	<p>【哺乳類】 コテングコウモリ</p> <p>【鳥類】 ミサゴ、サシバ</p> <p>【陸産貝類】 トカラコギセル、カサキビ</p> <p>【オカヤドカリ類】 オカヤドカリ類</p> <p>【魚類】 ニホンウナギ、アカボウズハゼ、ルリボウズハゼ</p> <p>【甲殻類】 ケフサヒライソモドキ、ヤマトヌマエビ、サキシマヌマエビ</p> <p>【貝類】 イシマキガイ、フネアマガイ</p>	<p>保護上重要な種の確認地は直接改変を受けず、生息環境に変化はない。</p> <p>以上より、予測対象種の生息環境に影響はないと予測する。</p> <p>【◎：生息環境に影響はない】</p>
対象事業実施区域内を流下する河川等で確認された水生生物のうち、対象事業実施区域より上流側で確認された種	<p>【魚類】 オオウナギ</p> <p>【甲殻類】 モズクガニ、ベンケイガニ、ヤマトヌマエビ</p>	<p>飛行場の存在により、移動経路の一部が改変を受けるものの、改変後の暗渠は現状と同程度の形状（勾配、落差等）を維持させる計画であることから、大きな影響を与えるものではないと予測する。</p> <p>【○：生息環境の一部が影響を受ける】</p>

## 2. 注目すべき生息地

飛行場（延伸した滑走路等）又は土砂採取区域の存在による注目すべき生息地への影響の予測結果は表 6.8-131 に整理するとおりである。

予測結果は、対象事業実施区域との位置関係をもとに以下の2つに区分し整理した。

- ・複数ある生息地のうちの一区画が対象事業実施区域内に分布する
- ・対象事業実施区域内外にまたがって分布する

この結果、飛行場周辺の平地樹林については、飛行場の存在により一部が影響を受けると予測した。また、土砂採取区域及びその周辺の生息地については、注目すべき生息地の範囲が縮小する等により、影響を受けると予測した。

表 6.8-131 飛行場又は土砂採取区域の存在による予測結果の整理

注目すべき生息地	予測結果
<ul style="list-style-type: none"> <li>・飛行場周辺の平地樹林（3箇所）</li> </ul>	<p>飛行場の存在により、類似する3箇所の生息地のうちの1箇所が消失するものの、2箇所は残存する。 これより、予測対象生息地の一部が影響を受けると予測する。 なお、調査範囲周辺には、同様の生息地が広く存在する。 【○：生息地の一部が影響を受ける】</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・土砂採取区域の緩傾斜面樹林</li> <li>・土砂採取区域の谷筋樹林</li> <li>・土砂採取区域の丘陵地樹林</li> </ul>	<p>予測対象生息地が対象事業実施区域内外にまたがって分布している。 土砂採取区域の詳細な範囲は未定であるものの、対象事業実施区域全体が土砂採取区域となった場合、すべての生息地の一部分が可変を受ける。 また、対象事業実施区域に接する範囲においても、日当たり・風通し等の変化により、環境に変化が生じると考えられる。 以上より、予測対象生息地のほとんどが影響を受けると予測する。 【×：生息地が影響を受ける】</p>

c. 航空機の運航による影響

予測対象は表 6.8-132 に示すとおりであり、飛行場周辺で確認された鳥類の予測対象種 5 種とした。

表 6.8-132 飛行場周辺で確認された鳥類の予測対象種

No.	分類群	科名	種名	選定基準				
				文化財保護法	種の保存法	県保護条例	環RL	県RDB
1	鳥類	ハト	カラスバト	天			準絶	準絶
2		ミサゴ	ミサゴ				準絶	準絶
3		タカ	ハイタカ				準絶	準絶
4			サシバ				II類	II類
5		ハヤブサ	ハヤブサ		国内		II類	II類
合計	1分類群	4科	5種	1種	1種	0種	5種	5種

1. 鳥類の予測対象種の確認位置と航空機の飛行経路

現在、飛行場周辺では、キジバト、ツバメ、スズメ等の市街地で良く見られる種が多く確認され、ウミウ、アマツバメ、コチドリ等の海辺で見られる種も見られた。ミサゴ、ハイタカ、ノスリ等の猛禽類の飛翔も数例確認された。将来の滑走路やターミナル施設の配置によれば、市街地及び樹林の一部が減少するのみであり、現況と異なる鳥類の新しい生息環境が生じることはないため、鳥類の構成は大きく変化しないと考えられる。

将来においても鳥類の構成が大きく変化することはないと考えられることから、現地調査における予測対象種の確認位置と、航空機の飛行コースの重ね合わせを行った。

その結果、カラスバトが滑走路の延長線上で確認されており、当該地でバードストライクが発生するおそれがある。

その他の予測対象種（ミサゴ、ハイタカ、サシバ、ハヤブサ）は航空機の想定飛行経路上では確認されておらず、バードストライクが発生する可能性は低いと考えられる。



図 6.8-55 鳥類の予測対象種の確認位置と航空機の想定飛行経路の重ね合わせ図